

急勾配天井取付金具

【35度～45度傾斜天井：¥6,400(税込¥7,040)】

22178



22170：チェスナットブラウン
22174：ブラック
22176：ホワイト
27996：ニューブロンズ

22172：ブライトブラス
22175：ブラッシュトニッケル
22178：アンティークブラス

※急勾配天井金具を使用した場合、無線リモコンの受信機を天井金具の中に収納することが出来ませんので壁付けコントロールを使用してください。

延長ロッド(パイプ)

製品番号・価格表

高気密防湿：◆
防湿：◇

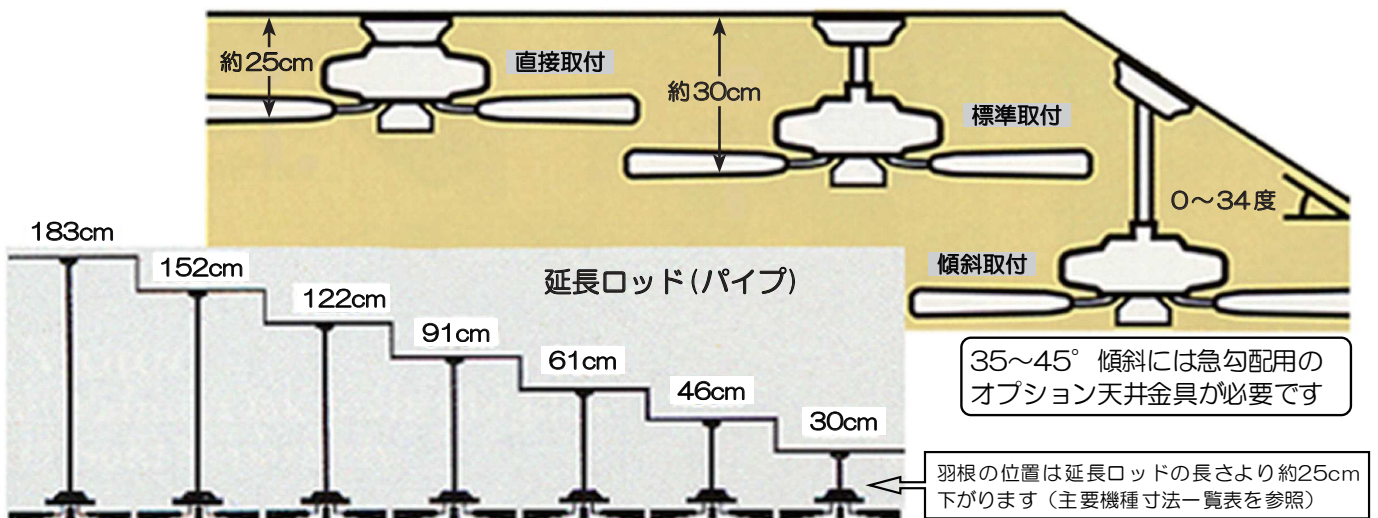
長さ (cm)	30	46	61	91	122	152	183
価格 (円)	3,400 (税込:3,740)	3,900 (税込:4,290)	4,500 (税込:4,950)	5,800 (税込:6,380)	6,900 (税込:7,590)	11,100 (税込:12,210)	12,900 (税込:14,190)
アンティークピューター (*1)	28054	28055	28056	28057	28058	28059	28060
アンティークブラス	27719	27729	26319	26329	26339	23190	23060
ウェザードブロンズ	28266	28267	28268	28269	28270	-	28271
サテンホワイト	28929	28930	28931	28932	28933	28934	27824
チェスナットブラウン	22711	22721	26331	26341	26351	-	23065
ブラッシュトニッケル	26019	26020	26021	26022	26023	26024	26025
ブラッシュトコア	64525	64526	64527	64529	64530	64531	99242
プロバダールゴールド	28224	28225	28226	28227	28228	28290	28229
ブライトブラス	22713	22723	26313	26323	26333	23192	23062
マットシルバー	99301	99302	99303	99304	99305	99306	99307
ニューブロンズ (*2)	26041	26042	26043	26044	26045	26046	26047
ポリッシュニッケル	99280	99281	99282	99283	99284	99285	99286
ブラック (*3)	26302	26219	26227	26228	26229	23194	23064
ホワイト	22717	22727	26317	26327	26337	23197	23067
◆ マットシルバー	99730	99731	99732	99733	99734	-	-
◆ マットブラック	99738	99739	99740	99741	99742	-	-
◆ フラッシュホワイト	99746	99747	99748	99749	99750	-	-
◆ ノーブルブロンズ	99755	99756	99757	99758	99759	-	-

材質：軟鉄（切断・長さ調節可能） ※高気密防湿用のロッドはステンレススチール製の為カットできません。

(*1):ブラッシュトスレート機種に使用

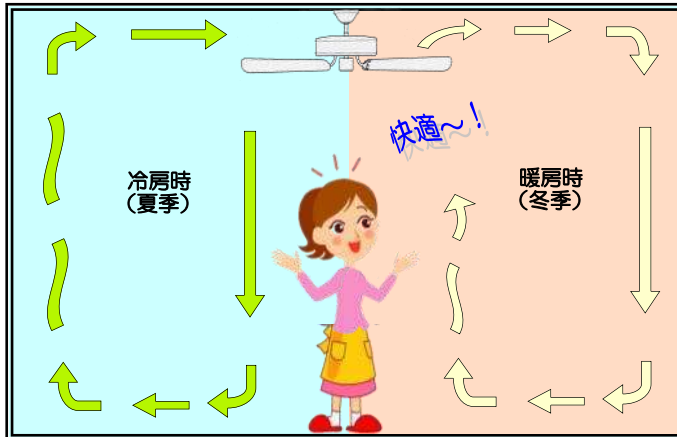
(*2):ブロンズ・ニューブロンズ機種に使用

(*3):ブラック・アンティークブラック・グラファイト機種に使用



ファンの取付位置と回転(送風)方向

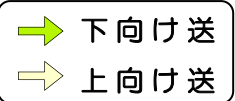
通常の天井高 (約3.5m以下)



通常天井高の部屋(3.5m以下)では標準取付又は直接取付がお勧めです。

寒い時(暖房時)には【上向き送風】にして天井の暖かい空気を壁伝いに床まで下ろしながら、暖房を部屋全体均一に循環し温度ムラを防ぎます。

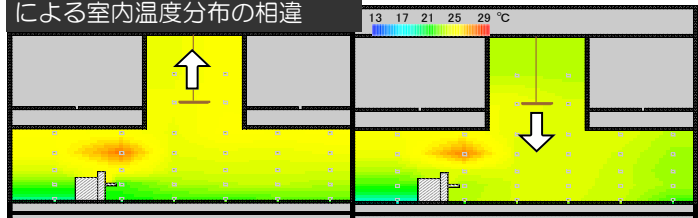
暑い時(冷房時)には【下向き送風】にして空気の流れて体感温度を下げると同時に、冷房の冷気を部屋全体均一に循環し冷え過ぎと温度差を防ぎます。



吹抜けの天井高 (約3.5m以上)

吹抜天井などの天井高が高い(3.5m以上)の空間に取付ける場合には、延長ロッドを使い最大限の空気循環効果が得られる高さを取付ける事が重要です。

東京電力の実験データによる吹抜けでの上向送風と下向送風による室内温度分布の相違

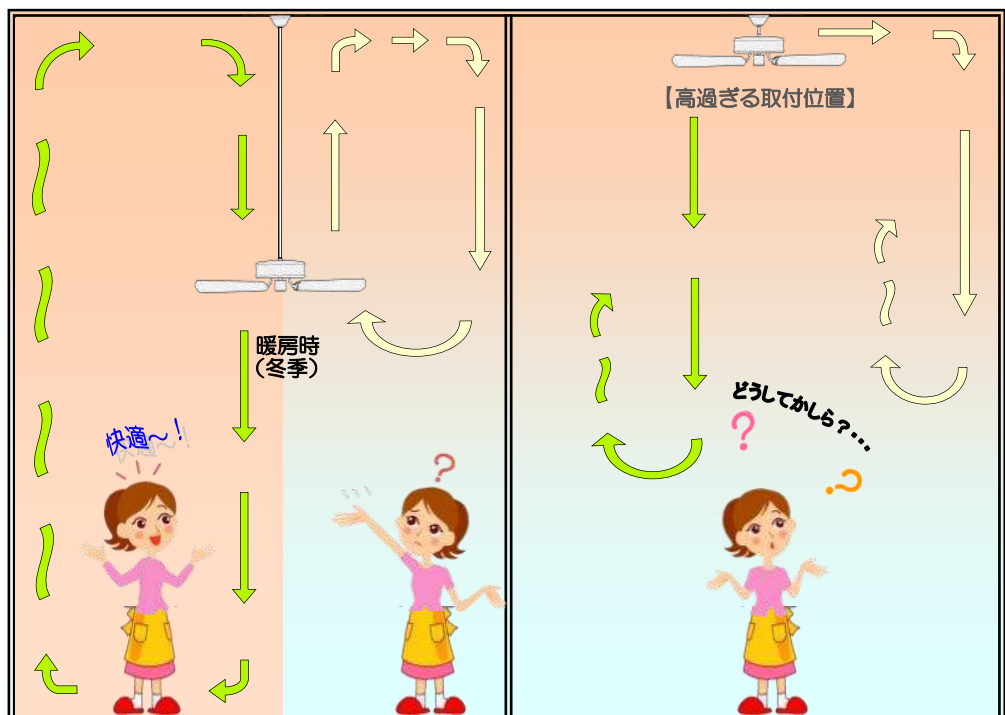


高過ぎる位置に取付けると

【空気の低い伝導率】の為に、どちら方向に送風しても空気が床まで押下げられずに、空気自体の温度差による浮力で途中で上昇してしまいます。(下右図)

延長ロッドを使ってファンの位置が床から『約4.5m以下』になる様取付けると効果的です(*)。暑い時(冷房時)には【下向き送風】にして空気の流れて体感温度を下げると同時に、冷房併用の場合にはエアコンからの冷気を部屋全体均一に循環し冷え過ぎと温度差を防ぎます。

寒い時や暖房時に上向きに送風すると送風空間(距離)が大き過ぎる為に、天井の暖気を床に届くまで押下げる事が出来ず途中で上昇してしまい床まで届きません。その為【下向け送風】をして暖気を床まで押し下げて空気循環を起こします。つまり【一年中下向け送風】にします。



(*) 効果的な取付高さは部屋の広さや形状により多少異なります